「桂坂山の手倶楽部だより」創刊１０周年記念

10 年前、平成 17 年 8 月 1 日八木兵司氏の熱い思いから広報誌「桂坂山の手倶楽部だより」第 1 号が創刊され今年 10 周年を迎えることとなりました。当時の誌面づくりは手作業で、写真を張り付けたり絵柄を書き込んだり孤軍奮闘で苦心されました。平成 21 年第 18 号からは、西澤四郎、岡村英明氏らが中心となりパソコンで写真を加工したり調整をしたりして、バラエティーに富んだ誌面づくりに努めました。

また、平成 23 年 5 月に当倶楽部創立 20 周年記念号が発行され、その歴史が辿れました。平成 27 年第 39 号からは岡村重臣氏をリーダに 6 人の体制で「喜んでもらえる広報誌」を目指して取り組んでいます。

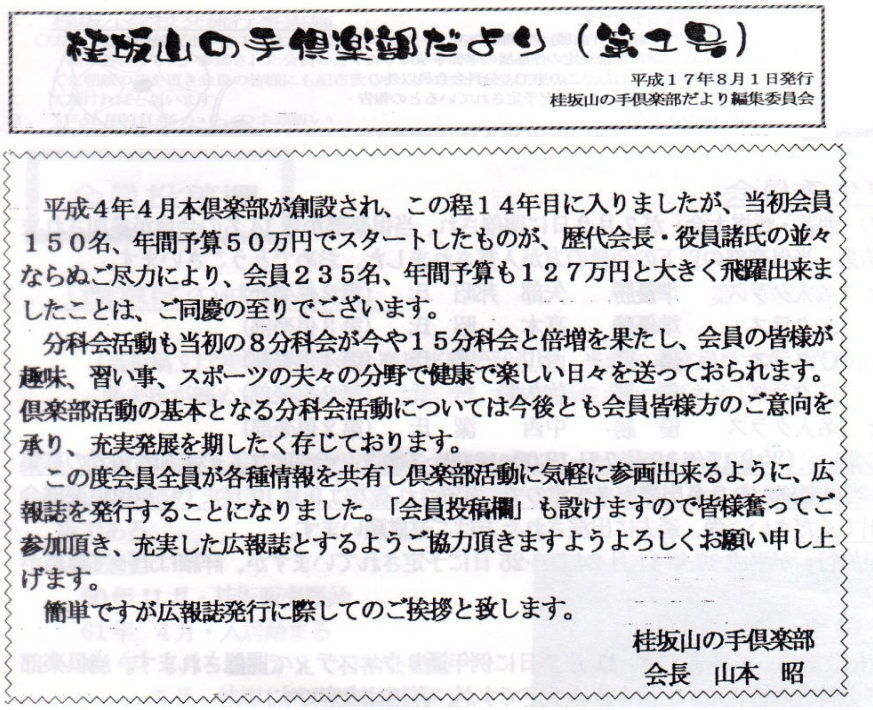
はじめのころ

八木　兵司

当倶楽部が設立されて 10 年余りが経過した時期に、事情があって突然事務局を担当することになりました。

創立後 10 年も経つと、会員の高齢化が進み活動も少しづつマンネリ化してきている状況でしたので、倶楽部の活動全体を見直す必要がありました。この課題に対して役員会で検討を重ねたり、近隣倶楽部の活動実態を調査したりしながら新しい企画を模索していく中で、その一つとして新たに「広報誌」を発行する案が浮上してきました。

各単位倶楽部から１名づつ担当役員を出していただいて編集委員会を編成し、創刊する「広報誌」の内容等について検討を重ね、ほぼ現在と同じ形で、平成 17 年８月１日に第１号を創刊することが出来ました（初めの頃は、会員の皆さんに「広報誌」に関心を持っていただくために自由投稿を呼びかけ、これを重視していました）。



桂坂山の手倶楽部だより（第１号）

平成１７年８月１日発行
桂坂山の手倶楽部だより編集委員会

平成４年４月本倶楽部が創設され、この程１４年目に入りましたが、当初会員１５０名、年間予算５０万円でスタートしたものが、歴代会長・役員諸氏の並々ならぬご尽力により、会員２３５名、年間予算も１２７万円と大きく飛躍出来ましたことは、ご同慶の至りでございます。

分科会活動も当初の８分科会が今や１５分科会と倍増を果たし、会員の皆様が趣味、習い事、スポーツの夫々の分野で健康で楽しい日々を送っておられます。倶楽部活動の基本となる分科会活動については今後とも会員皆様方のご意向を承り、充実発展を期したく存じております。

この度会員全員が各種情報を共有し倶楽部活動に気軽に参画出来るように、広報誌を発行することになりました。「会員投稿欄」も設けますので皆様奮ってご参加頂き、充実した広報誌とするようご協力頂きますようよろしくお願い申し上げます。

簡単ですが広報誌発行に際してのご挨拶と致します。

桂坂山の手倶楽部
会長　山本　昭

「広報誌」を発行する目的は以下の二点でした。

①会員の皆さんに倶楽部の活動状況を共有していただいて、会員の皆さんの一体感を高めること。

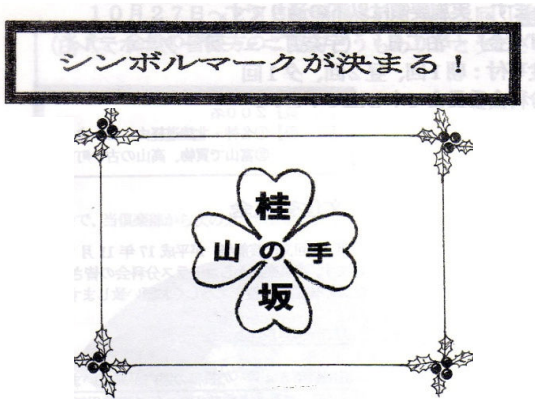
②倶楽部の活動状況を記録として残して、会員（役員）が変っていっても、過去の活動状況を振り返り新たな活動計画を策定していく上で参考に出来るようにすること（20 周年記念事業の際大いに活用出来ました）。

最初は事務局の私が取りまとめの立場でしたが、パソコンに弱くてレイアウトの作成に悩んだり、写真やイラストも全て手で張り付ける方法しか出来なくて大変苦労する時期がありました。しかし、その後は、新たに編集委員長を担当された西澤四郎氏、岡村英明氏、岡村重臣氏にいろいろ改善を加えながら引き継いでいただき、現在は非常にまとまった形で定着しています。

「広報誌」を創刊して 10 年を経過した時点でこのように記念のページを加えていただきましたので、これを機会に関係者の皆さんで「広報誌」の意義をもう一度見直し、更に充実したものにしていっていただければと願っています。

平成１７年９月４日に開催された今年度の第１回合同会議に於いて、当倶楽部のシンボルマークが決まりました。会員の皆様から応募された１２点の中から、投票により事務局提案の右のマークが採択されました。「かつら」の葉をイメージした「幸せを呼ぶ四つ葉のクローバ」に「桂坂」と「山の手」の字を入れたシンプルなデザインです。

今後、このシンボルマークを会員の皆様に親しんで頂くよう出来るだけ活用していきたいと考えています。



その後

西澤　四郎、岡村　英明

八木氏よりバトンを受け、どうしたら喜んでもらえる広報誌になるかと思案しましたが、取敢えず写真の沢山入った誌面づくりを考えました。パソコンに不慣れなメンバーでしたが、本を片手にあれやこれやと相談しながら写真の挿入が出来るようになり、少しは楽しい誌面づくりに貢献できたかと思っています。

また、当倶楽部創立２０周年記念号発行は２０頁のカラー印刷で、多くの人から寄稿をいただき、また乗本政三氏や八木兵司氏らに編集や 校正でご尽力を頂きました。

祝　創立２０周年記念式典

創立２０周年を迎え、この４月１６日ふれあい会館第１研修室で記念式典が開催されました。

当日は式典にふさわしい快晴のなか、槇枝西京区老人クラブ連合会々長、菊池潤治桂坂学区自治連合会々長のご臨席をいただき、会員１２０余名の列席のなか午前１１時３０分開始されました。

岡村英明実行委員の司会で、創立２０周年記念事業実行委員長乗本政三より、この２０年間ご尽力いただいた役員、地域委員、同好会の責任者、加えて会員の皆さんのご理解とご協力に謝意を述べ、また、当倶楽部の発展にご支援いただいた、西京区老人クラブ連合会並びに自治連合会に敬意を表しました。

私（第４倶楽部、岡村英明）は平成 15 年 5 月山の手倶楽部の新会員になり、その 2 年後平成 17 年 11 月 1 日発行された山の手倶楽部だより第 2 号に（指名されて）「山の手倶楽部にかんしゃ！」の一文を寄稿したのが縁で、平成 19 年 5 月発行第８号から本年 2 月 1 日発行第 38 号まで 8 年間、編集委員をつとめさせていただきました。と申しても、現役時代に学生向き「リクルート用小冊子」の発注責任者程度の知識しか持ち合わせていない悲しさで、もっぱら、山の手倶楽部内の催し事や、区老連主催の体育行事等を記事にすることで勘弁して頂きました。

23 年 2 月 1 日発行第 23 号の後、「創立 20 周年記念号・２０Ｐ」が発行されました。この編集には西澤さんお一人に頑張って頂いたと云っても過言ではありません。私は撮りだめしていた同好会活動のスナップ写真等が少しばかりお役にたった？他は、第２代上久保会長、第４代山本会長のご挨拶を編集部でまとめて、お二人のご了承を頂くことくらいしかできず、大きなプロジェクトを前に、無力な自分を反省させられました。

創刊１０周年を迎えて前編集委員としては、自分の拙い記事を恥じる反面、一号一号の山の手倶楽部だよりの全ページに蓄積された会員皆様の活動の数々こそは、年々輝きを増すように思えてなりません。39 号以降も、後を継いで頂いた皆様のお陰で、「桂坂山の手倶楽部だより」は“永久に不滅”です。

皆様　長い間、貴重な経験をさせて頂き有難うございました。今後は一会員・一読者として「桂坂山の手倶楽部だより」の発行を鶴首しております。

これから

岡村　重臣

私は平成 20 年 9 月に山の手倶楽部に入会し、平成 23 年度から当倶楽部の役員を務めさせていただいておりますが、「桂坂山の手倶楽部だより」の 編集に携わったのは、第 24 号（平成 23 年 8 月 1 日発行）からです。山の手倶楽部には、見たこともやったこともないグラウンド・ゴルフ同好会に入会を誘われたことがきっかけで、積極的にこれがしたいというさしたる動機もなく入会しましたが、入会当時は山の手倶楽部がどのような活動しているのかさっぱり分りませんでした。しかし３ヵ月ごとに配布される広報誌「桂坂山の手倶楽部だより」を拝読するうちに、おぼろげながら分って来ました。私のみならず新しく入会された方にとっては、広報誌は貴重な情報源となっているのではないでしょうか。

広報誌「桂坂山の手倶楽部だより」は、会員の皆様に全体的な活動状況をお知らせする等、全会員が情報を共有するための唯一の手段となっておりますので、より充実した紙面を模索することは勿論ですが、継続して発行してゆくことが最も重要だと考えております。

今後とも皆様方のご意見等を賜りながら、創刊の理念を忘れることなく、より充実した紙面を心がけ編集委員一同がんばってまいりますのでよろしくお願いします。

広報誌「桂坂山の手倶楽部だより」は、ホームページ桂坂自治連合会から桂坂山の手倶楽部を検索すれば全てがご覧いただけます。

桂坂山の手倶楽部だより編集委員